

第 1 1 3 回総務委員会と経産省ヒアリング記録

1. 開催日時 平成 25 年 9 月 18 日 (水)
- | | | |
|-------|---------------------|------------|
| 12:30 | 第 113 回総務委員会 (I 部) | 鉄鋼会館 806 |
| 14:00 | 経産省ヒアリング | 経産省会議室 6 F |
| 15:30 | 第 113 回総務委員会 (II 部) | 鉄鋼会館 806 |
| 17:00 | 業界紙記者と懇談 | 当組合会議室 |

2. 第 1 1 3 回総務委員会

出席者

笹田幹雄 (理事総務委員長)
高木 建 (理事長)
酒匂雅信 (副理事長・東京支部長)
高木唯夫 (副理事長・東海支部長)
浅野博之 (副理事長・大阪支部長)
木村昭夫 (副理事長・九州支部長)
柘野 (事務局)

- 議 題
- (1) 経済産業省 3 Q ヒアリング資料の検討について
 - (2) 第 4 回全国青年交流会 (札幌市) の開催概要について
 - (3) 次期通常総会の開催日時・場所について
 - (4) 今後の会合予定について
 - (5) その他

経 過

笹田委員長の司会により議事が進められた。

(1) 経済産業省 3 Q ヒアリング資料の検討について

事務局より標記資料について説明、一部修正の上了承された。

(資料は別稿参照)

(2) 第 4 回全国青年交流会 (札幌市) の開催概要について

事務局より、来る 9 月 20 日 (金) ~ 21 日 (土) 札幌市で開催の標記青年交流会の開催概要に関し説明が行われ、了承された。

(3) 次期通常総会の開催日程・場所について

平成 26 年 5 月開催予定の第 39 期総会の開催日程・場所等について、前回候補地に挙げた和歌山 (南紀白浜)、滋賀~京都等の比較一覧表をもとに検討した。

- ① 日程は、平成 26 年 5 月 16 日 (金) ~ 17 日 (土) を予定日とし、
- ② 開催地は、和歌山県の南紀白浜を第 1 候補地することが決まった。南紀白浜に

関するアクセス（飛行機、鉄道）等について追加調査し、その結果を各委員に送付し、再度検討いただくこととなった。意見を集約したうえで10月理事会に諮り、最終的に開催地を決定する予定である。

（4）今後の会合予定について

機関誌『情報』の1ページに掲載の「会議・会合予定表」をご参照ください。

3. 25年度3Q経済産業省ヒアリング

出席者

経済産業省

山下鉄鋼課長、但馬課長補佐他

厚板シヤ工組

高木理事長、酒匂東京支部長、高木東海支部長、浅野大阪支部長、

木村九州支部長、笹田理事総務委員長、

柘野（事務局）

経過

最初に、高木理事長より、「足元の状況は、前回6月の報告内容と比べると、業種・分野・地区とも業況の差が縮小し、全体として回復実感が持てるようになってきた。こうした中で、懸念材料や課題が色々出ている。例えば、①材料入手の制約が出てきており、メーカーサイドには需要に見合った供給をお願いしているところである。②利益なき繁忙の状態が続いている。シャーに来る注文は5年前に比べると、単重が半分に落ち込み、手間ばかり増えて収益につながらない。収益確保を最優先し、そのために値上げされている母材の価格転嫁が急務になっている。③長期不況に苦しんできたファブ能力は足元500万トン程度まで削減しており、それ以上の鉄骨需要に対応できるキャパはない。しかしファブが設備投資を積極的に行うとは考えにくい。④現場や設計段階の人手・能力不足問題も今後ますます深刻化するだろう。供給ネック等で量的な上限が見えている限り、シャー業としては適正な加工賃を何としても確保し収益を上げるしかない。

行政当局におかれては、当業界の事情をご賢察いただき、引き続き内需喚起のための重点施策を途切れなく打ち出していただきたくとともに、官公需案件の安定かつ平準なる執行を切に望みたい。今後とも尚一層のご支援を賜りたい。」との挨拶・要望が行われた。

続いて、各支部長から地区情勢報告が行われた後、鉄鋼課より、「厚板が使われる建築用材料にはどのようなものがあるのか。」「コラムのデリバリーはかなりきつくなっているのか。」「大型建築と中型建築の違いは。」等の質問が出され、種々意見交換が行われた。

以上